九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

石川捷治教授 還暦祝賀論文集

https://doi.org/10.15017/3920

出版情報：法政研究. 71 (4), pp.1-8, 2005-03-09. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

石川捷治教授　還暦祝賀論文集

題簽　植田信廣

九州大学教授　石川捷治　先生

石川捷治教授は、一九四四年一〇月二六日中国・大連市に生まれ、一九六七年佐賀大学文理学部を卒業後、九州大学大学院法学研究科修士課程（公法・政治学専攻）に進まれ、ファシズム研究のパイオニアである故具島兼三郎教授に師事されて、一九二〇～三〇年代のヨーロッパ政治史の研究を始められた。その後、同大学大学院法学研究科博士課程（単位取得退学）、同大学法学部助手を経て、一九七三年新設の北九州大学（現北九州市立大学）法学部専任講師に任用され、一九七五年には同大学助教授に就かれた。その後、一九七八年九州大学法学部に政治史・外交史講座担当の助教授として転任され、一九八九年同講座教授に就任され、政治学専攻を中心として院生・学部生の教育に尽力され、これまで二〇名以上の研究者を養成された。

この間、教授は研究・教育だけでなく、学内行政にも力を注がれ、評議員、法学部長・法学研究科長を歴任、二〇〇〇年四月には学内の制度改革に伴い、初代の法学研究院長・法学府長に就任された。また、一九九九年には新設の韓国研究センター長に併任され、日韓の学術交流にも専心されて今日に至っているが、その定評ある指導力と温厚な人柄でもって、国内外関係者の深い敬意を集めているところである。

教授が当初から取り組まれている研究テーマは、国際労働運動史であるが、そこでは一貫して、反ファシズム統一戦線の実像とその成立要因の理論的解明が追究されている。こうした分析視角から数多くの作品を公表されているが、そのなかでもとりわけ定評があるのは、『時代のなかの社会主義』（共著、法律文化社、一九九二年）であり、同書は長年の研究の結晶である。

また教授は、時代と格闘された恩師・具島教授の批判的精神並びに研究態度を継承されており、その時代にとって最重要な政治的争点にも学問的関心を寄せられている。それ故、教授は研究領域を単に政治史研究にとどめることなく、ヒロシマ・ナガサキや核問題を中心とした平和研究にも目を向けられ、さらには「九州・沖縄」という視角からの地域研究並びに日韓関係といった観点からの東アジア研究にも関心を寄せられている。その成果として『地域から問う国家・社会・世界』（共編著、ナカニシヤ出版、二〇〇〇年）、『終わらない二〇世紀』（共編著、法律文化社、二〇〇三年）を出版されている。この間、政治学の教育方法論にも深い関心を向けられており、初学者向けのテキスト『自分からの政治学〔改訂版〕』（共編著、法律文化社、一九九九年）は、版を重ねて出版されている。

還暦を迎えられてなお、何のために研究をするのか、という根源的問いかけでもって研究・教育に従事されている教授のいっそうのご健康とご発展を祈念する次第である。

石川　捷治　教授　著作目録

著書

『危機の政治学―ファシズム論と政治過程』（共編著）　昭和堂　一九八五年
『一九三〇年代危機の国際比較』（共著）　法律文化社　一九八六年
『福岡県評三十年史』（共同執筆）　福岡県労働組合評議会　一九八八年
『時代のなかの社会主義』（共著）　法律文化社　一九九二年
『自分からの政治学』（共編著）　法律文化社　一九九六年
『自分からの政治学』（改訂版）　法律文化社　一九九九年
『地域から問う国家・社会・世界―「九州・沖縄」から何が見えるか』（共編著）　ナカニシヤ出版　二〇〇〇年
『終わらない二〇世紀―東アジア政治史　一八九四～』（共編著）　法律文化社　二〇〇三年

論文

「統一戦線理論の形成過程―《労働者政府論》を中心として―」（政治研究　第一八号）　一九七〇年
「ワイマール・デモクラシーの危機と統一戦線―一九二〇年の反カップ闘争―」（九大法学　第二六号）　一九七三年

「政治危機と統一戦線（Ⅰ）―一九二三年のドイツ〈革命〉―」
（北九州大学法政論集 第一巻創刊号）　一九七四年

「政治危機と統一戦線（Ⅱ）―一九二三年のドイツ〈革命〉―」
（北九州大学法政論集 第三巻一号）　一九七五年

「コミンテルン第五回大会の再検討―統一戦線論の発展について―」
（北九州大学法政論集 第三巻四号）　一九七六年

「一九三二年の反ナチ統一戦線問題―ドイツ共産党の動向を中心として―」
（法政研究 第四五巻第二号）　一九七九年

「コミンテルン初期のファシズム認識―ドイツ共産党の分析との関連を中心に―」
（法政研究 第四六巻第一号）　一九七九年

「ワイマール共和制期の統一戦線運動―成立条件に関する一試論―」
（法政研究 第四六巻第二～四合併号）　一九八〇年

「ドイツ共産主義運動の《個性》―コミュニズムと〈国民的伝統〉へのアプローチ―」
（法政研究 第四七巻第二～四合併号）　一九八一年

「ファッショ化過程における『不可逆点』と統一戦線―プーランツァスの所論によせての覚書―」
（法政研究 第四九巻第一～三合併号）　一九八三年

「スターリンにおける革命と人間」『歴史と人間との対話』（九州大学公開講座一〇）
九州大学出版会　一九八四年

「コミンテルンの転換―第七回世界大会論ノート―」
（法政研究 第五一巻第三～四合併号）　一九八五年

「ドイツ共産党の戦略転換過程―一九三五年～一九三九年―」（法政研究 第五三巻第一号） 一九八六年
「統一戦線の史的発展段階論についての覚書―一九〇五年から今日まで―」（法政研究 第五四巻第一号） 一九八七年
「非核自治体運動についての覚書―一試論―」（法政研究 第五五巻第一号） 一九八八年
「初期コミンテルンにおける民族・植民地問題」
徳本正彦・毛利敏彦・小沼新編『ナショナリズムの動態―日本とアジア』九州大学出版会 一九八九年
「第一回北九州防空演習（一九三一年七月）―地域における戦争準備体制形成史ノート―」（法政研究 第五五巻第二～四合併号） 一九八九年
「被爆者論小考―福岡県内における調査と証言を手掛かりとして―」（法政研究 第五六巻第三～四合併号） 一九九〇年
The Meaning of the Movement for Nuclear Free Zone Local Authorities
“Peace in Asia towards the 21st Century” (Faculty of Law, Kyushu University) 一九九三年
「社会主義史における『一九六八年』―共感から幻滅へ―」
岡本宏編『一九六八年―時代転換への起点』法律文化社 一九九五年
「社会主義運動と統一戦線」『歴史評論』一九九六年一二月号 一九九六年
「『九州・沖縄』論小考―視座としての『地域』論をめざして―」
平井一臣との共著（政治研究 第四五号） 一九九八年
「政治学教育事始め―『時代転換期』に学生とともに何を考えていくのか」（法政研究 第六六巻第二号） 一九九九年

「復帰運動における『沖縄的』アイデンティティと『日本的』アイデンティティの変容と相剋」（法政研究 第六八巻第一号）二〇〇一年

「分権と民主主義の可能性」藪野祐三編『アジア太平洋時代の分権』九州大学出版会 二〇〇二年

「スペイン戦争と東アジア—日朝中の連繋に関する研究準備のための覚書」（法政研究 第六九巻第二号）二〇〇二年

Decentralization and the Future of Democracy "*Decentralization in the Age of Asia and the Pacific*" Asian-Pacific Center 二〇〇二年

「社会主義者における『性』と政治—日本の一九二〇～三〇年代を中心として」日本政治学会編『年報政治学二〇〇三』岩波書店 二〇〇三年

「市民・自治体からの安全保障—東アジアのなかの福岡—」（法政研究 第七〇巻第四号）二〇〇四年

「国際連合『人間の安全保障』論の意義と問題点」（日本の科学者 第三九巻九号）二〇〇四年

年表・調査報告書

『北九州地方労働運動史年表』（共編）北九州大学北九州産業社会研究所 一九七八年

『北九州地方社会労働史年表』（共編）西日本新聞社 一九八〇年

『福岡県被団協「原爆被害者調査」（中間報告）』福岡県原爆被害者団体協議会 一九八七年

『いのち・くらし・こころ—福岡県被団協（原爆被害者調査）』（編集・共同執筆）福岡県原爆被害者団体協議会 一九八九年

『朝鮮半島から九州大学に学ぶ—留学生調査（第一次）報告書一九一一～一九六五』（編集・執筆）　九州大学韓国研究センター　二〇〇二年

研究ノート・書評・解説・その他

「近代日本外交史の時期区分」（共同執筆）『戦争終結の条件』（国際政治 第四五号）　有斐閣　一九七二年

信夫清三郎編『日本外交史　一八五三～一九七二』I、II（編集補助）　毎日新聞社　一九七四年

北島平一郎著『近代外交史—ナポレオンからカイザーへ』（創元社、一九七五年刊）について（書評）　（政治研究 第二三号）　一九七六年

辞典項目『福岡県百科事典』（「安保闘争」「終戦」「戦後改革」「朝鮮戦争」「赤間文三」「野田卯太郎」などの他数項目）　西日本新聞社　一九八二年

川端正久著『コミンテルンと日本』（法律文化社、一九八二年刊）（書評）　『日本の科学者』第一八号（日本科学者会議）水曜社刊　一九八三年

「八三年福岡県知事選挙と政治変動」　（九州歴史科学研究会会報 第一一号）　一九八三年

「福岡県知事選『革新統一で圧勝』の意味」　（住民と自治一九八七年六月号）　一九八七年

座談会「第一一回統一地方選の結果をどう読む」（加茂利男・高橋進・石川捷治）　（住民と自治 一九八七年七月号）　一九八七年

「戦時体制と戦時下の市民生活」（共同執筆）（防空演習、空襲と疎開、原爆第二号機小倉へ）『北九州市史』近代・現代—行政社会編　北九州市史編さん室　一九八七年

「非核自治体運動の拡大とその意義」（社会問題月報 No.312、一九八八年九月号）　一九八八年
「地獄と絶望をこえて明日へ―福岡県被団協「原爆被害者調査」より―」
『証言1989ヒロシマ・ナガサキの声』汐文社　一九八九年
辞典項目『朝日人物辞典』（「具島兼三郎」ほか）　朝日新聞社　一九九〇年
「PKO法案に対する意見陳述」第百二十二回国会衆議院国際平和協力等に関する特別委員会議録 第七号（その二）　一九九一年
加藤哲郎著『コミンテルンの世界像―世界政党の政治学的研究―』（青木書店、一九九一年刊）（書評）　『季刊 窓』一四号 窓社　一九九二年
座談会「岡本 宏教授―その人と学問」（熊本法学 第七五号）　一九九三年
「日本政治はどこへ行く―転換期と新保守主義」
（福岡の暮らしと自治 福岡県自治体問題研究所、第一九一号）　一九九三年
「《研究運動》戦争はなぜ起きるのか―「統一戦線」の思想に学ぶ」「『未練学派』でなぜ悪い―『平和主義』の自壊と『方向感覚喪失状況』」「政治学者の『政治参加』―『五五年体制』の崩壊と日本の政治学」（住民と自治 一九九四年一一月号、一九九四年一二月号、一九九五年一月号）　一九九四年
「平成の国家改造戦略と民衆運動・住民自治の対抗―現代の構造と展望を読み解く」
（福岡の暮らしと自治 第二三八号）　一九九七年
「大学院における政治学教育―二一世紀に向けて―」（日本学術会議五〇周年記念シンポジウム記録集）　日本学術会議政治学研究連絡委員会　一九九九年

「小泉『構造改革』と日本の進路―日本の政治はどこに行く」（福岡の暮らしと自治 二九五号）　二〇〇二年

「日本における韓国研究の動向報告―最近の学会での論議および九州大学の研究を中心として」『韓日関係の総合分析―過去、現在、そして未来』釜山大学日本研究所　二〇〇三年

「憲法の実現を基軸に希望のもてる社会を―暮らしの視点から自治と公共性の再生の展望を語る」（福岡の暮らしと自治 三二四号）　二〇〇四年

学会報告等

「近代日本外交史の時期区分」（共同報告）日本国際政治学会春季研究大会（明治大学）　一九七一年

「一九二三年のドイツ〈革命〉―政治危機と統一戦線―」九州法学会第四六回学術大会（琉球大学）　一九七二年

「コミンテルン第五回大会論」九州法学会第五一回学術大会（大分大学）　一九七五年

「ナチズムと反ナチズム―大衆の動向を中心に―」九州法学会第五三回学術大会（長崎大学）　一九七六年

「ドイツ共産党と〈国民的伝統〉―ワイマール期における共産主義運動の〈個性〉を中心として―」日本政治学会一九八〇年度研究大会（北九州大学）　一九八〇年

The Meaning of the Movement for the Nuclear Free Zone Local Authorities　ＩＰＲＡ（国際平和学会）福岡国際平和フォーラム（九州大学）　一九九二年

The Original Experience of Being Bombed with Atomic Weapons and the Peace Movement in Japan　"Conflicts in Japan"　ＣＥＲＩパリ（フランス）　一九九二年

「方向感覚喪失状況の行方」日本平和学会九州・沖縄地区研究集会（第七回）（宮崎大学）　一九九四年
「戦後革新勢力の衰退―総括のための試論」九州歴史科学研究会シンポジウム「戦後日本革新勢力の変容と衰退」（西南学院大学）　一九九四年
「時代転換のなかの政治学教育―学生と共に何を考えていくのか―」日本政治学会一九九八年度研究大会（同志社大学）　一九九八年
日本学術会議五〇周年記念シンポジウム「大学院における政治学教育―二一世紀に向けて―」一九九九年六月一二日、日本学術会議政治学研究連絡委員会・法学政治学教育制度研究連絡委員会政治学専門委員会（成蹊大学）
「アジア太平洋地域の安全保障と九州・沖縄」日本平和学会九州・沖縄地区研究集会（第一四回）（鹿児島大学）　一九九九年
「二一世紀における日韓関係の課題」釜山外国語大学附属国際関係研究所主催、第一九回学術発表会（韓国・釜山外国語大学）　二〇〇一年
「大量破壊兵器の違法性をめぐる政治動向」日本学術会議平和問題研究連絡委員会公開シンポジウム「非核未来の創出と平和文化の形成」（長崎原爆資料館）　二〇〇一年
「日本における韓国研究の動向報告―最近の学会での論議および九州大学の研究を中心として」韓日国際シンポジウム「韓日関係の総合分析―過去、現在、そして未来」（韓国・釜山）　二〇〇二年
「九州・福岡」から見た北東アジア地域間協力関係の展望」北東アジア地域学国際会議（鳥取大学地域学部設置記念、鳥取県・韓国江原道・中国吉林省交流一〇周年記念）（鳥取大学）　二〇〇三年
二〇〇四年